

令和2年度 グループホーム長寿の家事業報告

【令和2年度重点取り組み】

1. 多様化するニーズへ対応できる職員のスキルアップ
2. 時代に沿った業務改善と情報収集
3. 開かれた施設を目指した地域参画

【運営実績】

1. 多様化するニーズへ対応できる職員のスキルアップ

①地域から寄せられる相談内容の多様化に対し、対応できる職員を育成するため、情報収集・知識の習得を目的とした関わりを積極的に持ちます
→コロナ禍で外部研修での情報収集及び知識習得が行えなかった為、職員会議の中での内部研修を通じて知識及び情報の収集に積極的に努めた。

②利用者・家族のニーズをチームで共有し、検討を重ね評価に結びつけることで日々の安定したケアを提供できるように努めます
→チーム内で共有したニーズをフロア会議等の中で最新の情報をもとに適切に評価に結びつけることで安心・安全なケアを継続的に提供することができた。

2. 時代に沿った業務改善と情報収集

①利用者のADL維持・向上や、認知症状におけるBPSDの特性を理解することで、安全・安心な支援を行います

→認知症の行動・心理症状や疾病を正しく理解し、予兆を早期に察知することで予防に努めることができた

②目的意識を持ち、根拠に基づいたケアを提供します

→日々行っているケアについて、利用者の負担軽減、合理的な業務の流れ、

コスト削減の面から検討し、PDCAサイクルからの確かな根拠に基づいた改善を身に付けることができた

③常に新しい視点を持ち、無理・無駄はないか、また採用すべき技法はないかといった意識を持ち業務に臨みます

→個々の能力に応じた役割を持たせ、進捗と結果のチェックを行うことで、組織の中で自分が必要とされていることを理解することができた

3. 開かれた施設を目指した地域参画

①認知症に特化した施設として、10年間の取り組みを周知する機会を設け、地域に根差した施設としての役割を発信します

→家族だけでなく近隣地域の方々にも気軽に相談や立ち寄っていただけるよう働きかけることで、地域から信頼される場面が少しずつ増えたと実感した

②地域行事に施設から積極的に参加することで、認知症への理解を深め、また利用者が社会との繋がりを感じ続けることができる関係性を高めるよう努めます

→今年度はコロナ禍の状況が長引き地域行事に参加できなかったが、近隣外出や日常の散歩等を通じて地域の方とのコミュニケーションを図り、グループホームならではの生活スタイルを周知することができた